

2017年6月5日

島根県介護支援専門員協会 御中

島根県保険医協会

会長 岩田 兼正



地域医療めぐる講演会のご案内

日医総研・主任研究員、坂口一樹氏を迎えて

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

日頃から当協会の活動にご支援、ご協力をいただき厚くお礼を申し上げます。

さて、当協会は、日本医師会総合政策研究機構（日医総研）主任研究員、坂口一樹氏を講師に迎え、講演会を開きます。

開催要項、趣旨は別紙、チラシの通りです。

何卒よろしくお願ひ申し上げます。

敬具

☎ (0852) 25—6250

担当事務局：佐藤

過去の医療費予測の検証から考える 地域医療と近未来の開業医像

地域医療構想、地域包括ケア、「かかりつけ医」テーマに

講師 日本医師会総合政策研究機構／主任研究員 坂口 一樹 氏

医療における政治とマネジメントが専門。1976年生まれ、気鋭の若手研究者

- ・2017年7月30日（日）午前10時30分～正午
- ・出雲市「ニューウエルシティ出雲」 *出雲市塩治有原町☎ (0853) 23-7388

日頃から協会活動にご支援、ご協力をいただき、厚くお礼を申し上げます。

講師は自身の論文で、過去になされた医療費予測の検証によって現在の医療費問題を考察し、今後の地域医療の在り方等を提言しています。具体的にはまず、「医療費亡國論」に基づく国の医療費抑制策に基づき、①医療需要（主に入院需要）が介護需要に振り替えられた、②しかし受け入れ施設（老健や特養等）が急に増やせるわけではない、③そこで国を挙げて在宅ケアを推進する流れが作られた、との仮説を立て、過去の医療費の予測と現実の医療費の乖離などを基にその仮説を検証しています。

その上で、「このまま在宅で医療・介護を受ける人々が増え続けた場合、私たちの社会はそれを包摂できるのだろうか？」「『地域包括ケア』という理想を掲げてはみたものの、そこに至る具体的道筋や光明もまた、見えない」と、地域包括ケア実現への疑念を率直に述べつつ、既に地域に存在する医療資源（病床）を有効活用する方向で、施設での医療・介護を強化すべきと訴えています。

当県の各地域医療構想区域も、2025年に向け、包括ケア構築に動き出しつつも、課題が山積と言われます。近未来の開業医像を交え、今後の地域医療の在り方を共に考えます。ご参加ください。

2017年6月7日

島根県保険医協会 ☎ (0852) 25-6250

《参加申込書》 2017年 月 日

- ・お名前
- ・ご所属等
- ・☎ () -

*ご記入の上、協会まで本紙ごとファックスしてください。協会 Fax (0852) 27-5724